

会津北嶺高校 神指城跡において 歴史探訪と草刈りボランティアを実施

会津北嶺高校（会津若松市相生町）では、9月15日、昨年に続き、1年生と3年生の合計216名（2年生は修学旅行）と教職員で神指城跡の雑草除去と本丸跡の東西に通る歩道の整備を行った。作業前に同校施設課の菅谷真祐課長が、神指城跡の歴史の概略を話した。

「慶長5年（1600年）会津領主上杉景勝は鶴ヶ城の立地が山に近いことを危惧し、周囲を開けていて大川の水を利用できる神指原（こうさしはら）の地に築城を始めました。しかし、この築城工事が徳川家康に上杉征伐の口実を与え、数ヵ月後の6月10日、家康の会津征伐

が間近に迫ったことから工事は中止。神指城は工事途中のまま残され幻の城となりました」。

「今年はコロナ禍も緩和され、本来のスタンス（2年生は修学旅行）で行った。また、今年も猛暑日が続いて、例年以上の草が生い茂りましたので草刈りも大変でしたが、生徒たちがよくやってくれました。この地は、11年ほど前までは畑が点在して農道が遊歩道として利用できましたが、近年は耕作されることもな

く荒れ放題で、今年も遊歩道が雑草木で閉ざされていました。当校の生徒達の力で本丸を東西に走る遊歩道を再び開通させたことで、年間5000人といわれる訪問者の皆様にも歴史のロマンを感じて頂けると思います」と石山校長。

※神指城跡図面に○が付いているところに案内板がある。

